

登録コード	J6070200	開講年度	2026				
授業科目	民事訴訟法Ⅱ				担当教員	CHOI JEONGIM	
英文授業名	Civil Procedure Law Ⅱ				副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 法：2年
講義室	経法第2講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	経法20加						
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。				⇔	本授業は、民事訴訟法の学習を通じて、訴えの提起から審理、判決、上訴、確定に至るまでの流れを体系的に学ぶことにより、法的思考力および条文・判例を用いた分析力を養うことを目的とします。	
	経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律，経法20加・総合法律						
	法学の専門領域の基礎能力として、リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。				⇔	本授業は、法学の専門領域における基礎能力としてのリーガルマインドを涵養するとともに、現代社会の諸問題を法的に解決するために必要となる民事訴訟法に関する基礎的な法概念・理論・判例を理解し、これらを体系的に説明できる能力を身につけることを目的とします。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	民事訴訟法Ⅱは、民事訴訟法Ⅰで学んだ基礎知識を前提に、より深く民事訴訟の仕組みを理解するための発展的な授業です。 特に、民事訴訟法Ⅱの扱う範囲の中から、複数当事者訴訟、証拠調べ、既判力など、重要なトピックを取り上げ、それぞれについて条文・判例・学説を踏まえて履修者とともに検討を行います。議論の進度や履修者の理解状況に応じて、授業計画は適宜変更する可能性があります。前期に開講される民事訴訟法Ⅰとあわせて履修することにより、民事訴訟法の全体像を体系的に理解できることを目指します。						
(5)授業計画	第01回 ガイダンス・民事訴訟法Ⅰの総復習（訴訟構造の再確認） 第02回 審理1：審理の原則、口頭弁論の準備・証拠整理手続 第03回 審理2：口頭弁論手続 第04回 事案の解明1：弁論主義と職権探知主義 第05回 事案の解明2：裁判上の自白 第06回 証拠調べ1：民事訴訟における証拠・証明・自由心証主義 第07回 証拠調べ2：証明責任 第08回 証拠調べ3：証拠調べ手続 第09回 小テスト（基本概念の中間整理として、約20問の確認テストを行う） 第10回 訴訟の終了 第11回 判決の効力1：既判力 第12回 判決の効力2：争点効・反射効 （ここまでの内容は必ず行う。13回目14回目の内容についてはここまでの内容が終わり次第進めることとする。） 第13回 請求についての複雑な訴訟：訴えの変更 第14回 主体についての複雑な訴訟：共同訴訟 第15回 補論：授業全体の総括、授業アンケートの実施 期末試験						
(6)成績評価の方法	期末試験（80%）と小テスト(20%)で、100点満点につき、90-100は秀（S），80-89は優（A），70-79は良（B），60-69は可（C），59以下は不可との基準により評価します。						
(7)成績評価の基準	判例集（下記「民事訴訟法判例百選」）程度に要約された未知の事案に対して、授業で学んだ適切な道具立てを用いた事案の明快な分析に基づき、ルールを適切に適用して説得力をもって適切かつ合理的な解決に導く能力を示すことができれば「卓越している」、適切かつ合理的な解決を示すことができれば「かなり上にある」。授業で学んだ適切な道具立てを用いて事案を分析し、合理的な解決を示すことができれば「やや上にある」、破たんのない解決を示すことができれば「水準にある」						
(8)事前事後学習の内容	各回の講義に先立ち、教科書等により当該範囲を予習してください。さらに、講義終了後には復習を行い、授業内容の理解を深め、学んだ内容を確実に身につけるよう努めてください。						
(9)履修上の注意	六法は必ず持参してください。なるべく最新年度の六法をお願いします。 前期に開講している民事訴訟法Ⅰを履修していることを履修上の必要事項とします。						
(10)質問、相談への対応	授業内容に関する質問やご相談は、授業終了後に直接お受けするほか、メールでも対応いたします。						
【教科書】	山本弘・長谷部由起子・松下淳一著、林昭一補訂『民事訴訟法（第4版）』有斐閣（2023年） 上原敏夫・池田辰夫・山本和彦著『民事訴訟法（第8版）』有斐閣（2025年） 三木浩一・笠井正俊・垣内秀介・菱田雄郷著『民事訴訟法（第4版）』有斐閣（2023年） 上記の以外の民事訴訟法基本書を選択しても大丈夫です。レジュメを参考に基本書の予習・復習を通じて民事訴訟法の理解を深めてください。						
【参考書】	①最新年度の六法 ②高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選（第6版）』有斐閣（2023年）						